



「また漕ぎたい」

大好評の白門レガッタ 初心者がボート好きになった日

みんなでボートを楽しむ「白門レガッタ2012」(企画・運営、中央大学学友会体育連盟ボート部、中央大学白門艇友会=ボート部OB会)は11月18日に埼玉県戸田市の戸田オリンピックボートコースで行われた。中大ボート部員らの指導により、未経験者を含む4人1組の参加者が4人乗りの「ナックルフォア」という安定度に優れたボートに乗艇。初心者向けの300mコースでタイムを争った。中大杉並など附属高から大学生協食堂チームやOB諸氏までの54組が参加した。



準備体操をする福原紀彦総長・学長

座席が動いた

「うあっこれ動くよ」初心者はボート内の座席が動くのにびっくり。ボート部員が付きっきりで懇切丁寧に教える。

「体を前へ出して、それから思い切り後ろにオールを引いてください」「オールを持つ手がお腹の前にくるようにしてください」

オールの使い方がよくてボートがスーッと前へ進むと大歓声。乗艇から安全上



さあスタートだ



佐伯さんたちのチーム



楽しそうな若林ボート部長(右)

の注意事項確認、実戦練習、レースを終えて陸に上がるまで約40分。参加者はボートの面白さと水辺の季節を楽しんだ。

「初めてでしたが、風が気持ちよかったです。季節を感じました。また漕ぎたい」とはクラ



佐伯綾香さん

スマートと参加した中大文学部1年の佐伯綾香さん。高校生チームはメイド服やサンタクロースを先導するトナカイのコスチュームで周囲を楽しませた。

強風のため一部レースが中止となったが、優勝は学生の部「森ゼミB」、高校生の部「そんな川名が好きなな」、一般男子の部「板橋白門ブリッジチー



優勝した学生の部「森ゼミB」のみなさん

ム」、一般女子の部「スマイル母さんズ」、一般混成の部「有閑な仲間達」の5組。学生チャンピオンになった森ゼミBの佐藤立基(りつき)さん(商学部2年)＝右上写真前列右から2人目＝は「初めは怖かったけど、ボートが安全なスポーツだと分かりました。練習ではめちゃくちゃ。初心者ばかりでどうなるかと思いつつもボート部員の指導を受けて、そのまま力を合わせたら…」奮闘が優勝となってゼミ生は全員笑顔だった。

学生スポーツの華

ボート部部長で大会会長の若林茂則副学長の言葉を引く。「日本ではあまり知られていませんが、世界的に見れば、ボート競技は学生スポーツの華です。ボートは力任せに漕いでも息が合わなければ全く進みません。究極のチームスポーツと呼ばれています」

競技の日本での始まりは1869年(明治2年)、横浜で英国海軍乗務員によるレースが行われた。1987年に東大―橋大(当時東京商科大)、1905年に早慶レガッタ第1回が開催された。中大ボート部は1951年の創部である。

レースは2000mの速さを競うのが基本だ。花形種目は「エイト」で、この日はボート部員によるデモンストレーションが行われた。9月の全日本選手権エイトで2位となり、10年ぶりのメダルを獲得した(優勝は日大)。最近3年間、学生の全日本選手権でベスト3位以内保持の実力を披露した(2010年3位、11年3位、12年2位)。

無事に大会を終えた白門レガッタ実行委員会委員長の林靖晴中大ボート部主将は「みなさんの笑顔を見てこちらもうれしくなりました。これを機会にボートを好きになってくれたらもっとうれしいです」と締めくくった。



林靖晴中大ボート部主将



会場を沸かせたトナカイチーム

「また漕ぎたい」

大好評の白門レガッタ



■大会会長・若林茂則ボート部部長の話

「ボート部は昨年60周年を迎えました。ボート部では素晴らしい施設をみなさんにできる限り開放しています。同好会づくりのサポートなどもしています。中大のますますの発展に一つの核となっていきます」

■中大ボート部

1983年の全日本選手権、全日本学生選手権のエイトで初優勝。優勝13回。準優勝9回。「学生が主体的に考え、自主的に練習する。それが頂点を目指す中央大学のボートです」(中大ボート部HPより)

■戸田ボートコース

1964年東京五輪のボート競技会場。雨水や湧水によって貯水された日本唯一の静水コースだ。ボート競技者にとっては「一度は漕いでみたい」という憧れの聖地となっている。コース周辺には中大を始め早慶など各大学、企業チームの合宿所がある。国内唯一ということで東北大や筑波大の拠点もここにある。

東
海
大

早稲田	慶應	日本医科大	東京外語大	日本大	東京工業大	三菱菱和会	東京海上	明治安田	立教	東京医科歯科	共立女子	NIT東京
-----	----	-------	-------	-----	-------	-------	------	------	----	--------	------	-------



埼玉県
第一艇庫

東京海洋大

(ナショナルトレーニングセンター)
国立艇庫

観 覧 席

管 理 棟
(大会本部)

成城	成蹊	一橋	明治	東京経済大	筑波大	東北大	トヨベツト	法政	学習院	東大
----	----	----	----	-------	-----	-----	-------	----	-----	----

中央大学

埼玉県
第二艇庫

カヌー艇庫

戸田市艇庫

ボート部の1日



全部員が合宿所から自転車で最寄り駅のJR埼京線・戸田公園駅へ向かう。新宿―高幡不動経由で大学へ。片道1時間30分かけて通学している。

林主将によると、ボート部の一日は午前4時起床。消灯午後10時半。登校前に15~21kmを漕ぎ、午後5時からウエイトトレーニングなどで汗を流す。これはシーズンオフの練習で、大会を控えたピークではレースを想定した強化メニューとなる。

「5限(の授業)が終わると6時5分。そこからダッシュで合宿所に帰ると8時近くになります。練習では息を合わせるのが難しいのですが、シンクロした時のボートのトップスピードは最高です」(林主将)

週に1度の休日は、それぞれが好きなことをしている。